総合研究大学院大学平成 29 年度海外学生派遣事業　実績報告書

所属：文化科学研究科　地域文化学専攻
氏名：白　福英
海外派遣先国：中国
海外派遣先機関：内蒙古社会科学院
海外派遣時間：2017 年 12 月 1 日～12 月 21 日

●海外派遣先について

内蒙古社会科学院は内モンゴル唯一の哲学・社会科学を研究対象とする総合的研究機関である。1979 年 2 月に創立された。現在、院には、哲学および宗教研究所、モンゴル言語文学研究所、牧畜研究所、民族研究所など 13 の研究所がある。また、蒙古学センター、三少民族（3 つの少数民族とは、ダウール族、エヴェンキ族、オロチョン族を指す）研究センターなど 4 つの研究センターが設置されている。モンゴル語、中国語版の『内蒙古社会科学』、『中国蒙古学』（モンゴル語版）のジャーナルが刊行されている。各研究所と研究センターに合計 145 人の研究者がいる。これらのジャーナルを閲覧すればモンゴル研究の研究動向を把握することができる。

●海外派遣前の準備

今までの現地調査で収集したデータを整理しているうちに、現地で得られたデータを裏付ける行政資料が必要であることが分かった。そのため、調査する内容がはっきりと決まった。それは中国における 1958 年の大躍進の前後に飢饉を逃れるために、内モンゴルのアラシャー盟やバヤンノール市に移住した甘粛省出身者に関する新聞記事の閲覧である。

●海外派遣中の研究活動

今回の調査期間は移動と土、日曜日の休みを除いて実質 13 日間だった。より多くの資料を閲覧するために、土、日曜日も開いている内蒙古図書館を利用した。そこのモンゴル語の資料室を利用して『巴彦淖爾日報』、『内蒙古日報』を閲覧した。しかし、『巴彦淖爾日報』も『内蒙古日報』も欠けていた。欠けている分を『内蒙古日報社』へ行って確認したところ、本社には『内蒙古日報』しか置いていなかった。渡航先の図書館にも『巴彦淖爾日報』がなかったため、臨機応変に臨河市にある『巴彦淖爾日報社』を訪れて、そこでモンゴル語版と中国語版の『巴彦淖爾日報』を閲覧することができた。

渡航先の図書館では中国語版の『内蒙古日報』とモンゴル語、中国語版の『内蒙古社会科学』、『中国蒙古学』（モンゴル語版）を閲覧した。『内蒙古日報』の前身は『綏遠日報』という名称だった。

閲覧した新聞から現地調査で得たデータを裏付ける新聞記事が見つかり、博士論文の完

成度を一段上げることができるのではないかと考えている。

●海外派遣中に行った研究以外の活動

12 月 14 日に内蒙古日報社に出向き、1940 年代から 1966 年までの新聞を閲覧する予定だったが、資料室の鍵を管理している職員が家庭の事情によって休んでいた。そのため、やむを得ず、内蒙古飯店という五つ星ホテルで開かれた「第六回チンギス・ハン陵文化フォーラム」に飛び入りで参加した。そして違う分野の研究と触れ合うことができた。

●海外派遣費用について

フフホト市で地下鉄を敷設するための工事が行われていて、そのため市内を走るバスは路線を変更して運行されていた。どのバスに乗れば目的地に到着するかは分からず、結局タクシーに乗る羽目になった。それにしても交通の渋滞に巻き込まれて交通費が予想以上かかった。予約したホテルもネット上は人民元で 1 泊 479 元となっていたが、実際 1 泊は 500 元がかかり、予算をオーバーした。

派遣先である内蒙古社会科学院の図書館にも訪問する予定であった『内蒙古日報社』にも『巴彦淖爾日報』（モンゴル語版、中国語版両方とも）が所蔵されていなかった。そのため、フフホト市にある内蒙古図書館や臨河市にある巴彦淖爾日報社へ足を運ぶことにした。臨河市に 2 泊して想定外の出費がかかった。

●海外派遣先での語学状況

内モンゴルにおいてモンゴル民族は主体となっているとはいえ、公用語は中国語である。文献調査に当たって必要に応じてモンゴル語と中国語を使い分けた。

●海外派遣先で困ったこと

バスが臨時的に路線変更して運行しているのに、バス停にどう変更したかについて何の説明もない。何回も間違えて乗ってしまってお金と時間の無駄だった。宿泊したホテルも宿泊代はネット上に公開している情報と違っていて、いくら交渉しても無駄だった。

派遣先である社会科学院にせよ、内蒙古日報社にせよ職員たちの多くは時間にルーズな人が多かった。決まりでは、朝は 8 時半に出勤となっているが、9 時か 9 時半にならないと出勤しない。それによって限られた時間が削られることになった。

また、内モンゴルにおいてどこにどの資料が所蔵されているかの情報を検索できないことと自由に資料を閲覧できないことが一番困った。『内蒙古日報社』では一つの資料を閲覧するために 5 人の署名や許可が必要で、資料の閲覧に辿り着くには忍耐を要する。閲覧を予定していた『自治内蒙古』（モンゴル語版）の資料は 5 人の責任者が揃わなかったため、見られなかった。日本と違って自由に資料の閲覧ができないのは、大きな壁だった。

●海外派遣を希望する後輩へアドバイス

調査に当たって予想できない困難にぶつかるかもしれないが、それにめげず柔軟に対応することが大事である。進みたい方向が赤信号になっていても右側か左側が青信号になっているはずです。遠回りしていても目的を達成しよう。

内蒙古社会科学院

内蒙古社会学院図書館

社会科学院図書館の中国語資料室の一角

内蒙古図書館のモンゴル語閲覧室の風景

巴彦淖爾日報社

第六回チンギス・ハン陵文化フォーラム会場